





# 京都&東山 ぶらりピカリ

52

東山区

## 本町通

ほんまちとおり  
写真は正面から南向き



本町通は五条通の鴨川東岸の一丁目から稲荷近くの二十二丁目まである通り。そこから南は直達(すじかい) 橋通の名で(伏見区)となり国道2号にもつながっている。伏見街道とも呼ばれる本町通は、天正14年の開通、豊臣秀吉の伏見城築城と「京大仏殿」建立に際して原型が出来て、文禄元年から交通の要衝となり、(伏見板橋小学校内碑通りに沿って) 諸々の商家が軒を連ねたことに始まります。

元の通りは本町9丁目までJR東海道路で分断されて、歩行者用の「跨線歩道橋」 鉄道写真愛好のボイント(つ)ながっています。迂回道路は本町8丁目塩小路から本町10丁目の泉涌寺道にかけて、西側に「新本町通」と呼ぶそうです。

昭和30年代までこの辺りの本町は、他所に買い物に行く必要が無いほど五条、正面、南の塩小路までの両側は商店が「ビッシリ」と並び、大きな本町市場もありました。

今も塩小路の角にある映画館「本町館」は三番館でしたが良い映画も来て、何度か見に行きました。

その様に殆どのお店がなくなる中、「元禄時代創業・漬物の赤尾屋さん」と「洋食の本町亭」さんと他にも健在な店もあります。

貞教尋常小学校一年入学早々「ジフテリア」で「喉切開手術」で助かった私。その退院を祝ってくれたのが本町亭の「とんかつ」でした。生まれて初つの洋食を経験、世の中にこんな美味しいものがあると驚きました。本町亭の二代とは立命大へ共に通い、野球で遊んだたのですが先年お亡くなりです。今は奥さん娘さんが「初代の味」を守り続けられ、名前もシンプルな「前もシンプル」



写真は「ペアランチ」さん娘さんが「初代の味」を守り続けられ、名前もシンプルな「前もシンプル」

本町亭は通りの西側にあります。この本町通五条、塩小路間に酒蔵が三つありました。その内の一つは当社裏の「日出盛」、今は伏見に集約され、二つの酒蔵は廃業されました。清水の音羽の滝からの「音羽川」が学区の真ん中を通り、水が良かったのです。旧京都、酒蔵は上京区「出水」も多かったのですが今は佐々木酒造のみです。私は両方の水を飲み比べますが「東山」の水のほうが「出水」の水より幾分か柔らかく感じました。その音羽川も暗渠になりました。博物館の南に分流があり、幼い頃、沢蟹やヤゴが捕れました。文明文化発展で自然を壊す事が無いようにしたいものです。

# 市電が走った 京都を巡る

43

福田 静二



熊野神社前を出た丸太町線

丸太町線は、東山線を渡って西へ向かいます。すぐ左手には、京都大学の学生寮、熊野寮が見えてきます。学生の自主運営による寮で、学生運動の拠点となったところで、運動華やかなりし頃は、建物全体が立て看板やビラで埋め尽くされていました。現在は改修されたものの、建物そのものは変わらなず、当時の雰囲気はまだ残っています。丸太町通北側には、古書店や飲食店もあつて、学生街の延長を感じさせます。

そして、まもなく到着するのが「丸太町新道」の停留所です。新道とは、ここで交差する南北の細い道路ですが、北は京都大学病院南は琵琶湖疏水に挟まれているため、わずかに二、三百メートルしかありません。目立たない道路名もあつて、丸太町新道の停留所も認知度の低い停留所でも、もちろん平日朝に実施の急行運転も通過扱いでした。

そんな停留所も、夏に限っては大いに賑わいを見せていました。まっすぐに南へ行くと、京都踏水会があつて、そこに通つ子どもたちが乗降するのです。丸太町新道には、子どもたち相手の屋台も出て、水泳帰りの子どもが市電を待つ間、買い食いする光景も見られました。

京都踏水会は明治二十九年に、大日本武徳会遊泳部として発足した歴史のある水泳教室で、琵琶湖疏水の夷川ダムに設けられた一角を区切り、疏水の水を使ってプールとしました。オリンピックメダリストなども輩出した名門です。

今から見ると、貧弱な設備でしたが、まだ小学校にプールなどなかった昭和三十、四十年代、子どもたちの水泳教室として、大賑わいを見せました。泳ぎが苦手だった私は、ついに入会することなく、初めて踏水会のプールに入ったのは、中学校の授業の一環で行った時でした。その後、踏水会は疏水北側の室内プールに移り、疏水を

使った天然のプールは姿を消しました。丸太町線の市電廃止後は、両側への停留所距離が短いこともあつて、市バス停留所は設けられていません。今でも夏休みに水泳教室へ通つ子どもたちはいるものの、送迎バスが完備しており、丸太町新道付近が、夏の時期、子どもたちで満杯になった光景も、すっかり過去の思い出となりました。

さて、私は、八月いっぱいサカタ二さんの二階ギャラリーカフェで、「京都七条市電通り」写真展を行ないました。ご来場いただいた皆さまから京都市電の思い出を聞かせていただき、有意義なひと時を持つことができました。お陰を持ちまして、滞りなく会期を終えることができました。

皆々、ありがとうございました。来場の方々に「市電は外周だけでなく残せは良かったのに」と声が多く聞けた。ys.



雪の日、京大熊野寮の前を  
行く市電



丸太町新道の停留所に到着する丸太町線の市電

# 酒屋で生きて 生かされて



## 第九十四話 酒と税金

ひと昔前は酒屋お米屋さんは金持ちと言われている。最近では酒屋と米屋が激減している。両者は、大蔵省、農林省の庇護を受けて、免許・許可などで業種内競争が抑えられていた。

酒と米は、時の為政者の財布のようなもので、中世から現在の酒税のような壺銭・酒役酒屋役麹役として課せられていた。寺、神社・大名等に許されたものが「醸造」できた農家の自家用どぶろくは別)

明治政府ができて間もなくの1868年、1871年には今の酒税法に似た制度ができた。酒税は、日清・日露・日中・前の戦争まで、政府の財政を支えた。日本の国税収入の殆ど第1位だった。1920年は

税収総額42%だった。酒販売免許の歴史は1657年(明暦3)にさかのぼると言う。近世(1940年(昭15))誰でも売れた酒に大蔵省の販売免許がある新酒税法が施行された。酒の販売量によって強制的に廃業を命じられた。祖父は役所からの、廃業通知を届ける役を負っていて、「可哀想で気の毒でカナン」と祖母に愚痴っていた。

我が店も新免許制度で飲み屋と酒屋の併業が禁止、手に入れた隣家で、番頭名義の酒場にして営業を続けた。飲食店の酒の特別枠が有って、毎日ではないが営業した。販売量は量が限られ、入荷分に合わせて、「一合券」を配っていた。開店日には行列ができた。酒の摘みは、お客さんの中で酒の摘みは、お客さんの中で工面して呉れる人、行列で揉めるとそれを裁く人等がいて助かったよ。お礼は「券制翼賛会」に排斥され、パーマネットは止めましよう

### 重陽(ちようよう)



月三日  
空は西へ西へと自転して地平線上に昼と夜が視線を交えた。彼等の間に昔何があったのかは、短命な人間は言えない。今日から

9月9日は重陽の節句。い仲良くしてほしい所だ。「打ち解けないなあ」縁側に足を投げ出す僕の背から、眠気の混じる声が沈んだ。後ろをそつと盗み見ると、三、四日は徹夜をしている面が、柱にもたれる体と共に遠くを見ています。しかしこれはマヤカシで、彼は今、自らの頭の中しか見えていない。「書けたか?」「まだだ」

の歌があった。又、ビール会社は二社に。あらゆる企業の合併・統合が進み、余剰の人員は、軍需工場に勤めるしかなかった。その政策は恐らくヒトラー(希ムッソリーニ)を手本にしたの



酒税から話が途中で脱線した。終戦の月、子や孫の時代も平和であれと願いながら、自分でどいなと思いつきながら、居切れトンボもお許しを!

### まだだが、今夜終わる

欠伸混じりの声はほのかに踊っている気がする。だが振り向くのはよしておこう、眠気が移ってしまつから。「確信を君の口から聞くのは初めてだよ」

「そりゃそうさ、今日書き終えるのは初めてだからなあ」いつにも増して、嬉しそうに「そんなに今日が特別なのかい?」期待を胸に、声を色に込めてみると、「ああ、だって今宵は重陽。太陽が一年の内でも最月を美しく見せる日だろ」

### うわっ

鳩かと思う大きさの、白いものが羽を一つ羽ばたかせて勢いよく降りてきたのだ。僕は硬く身がまえて、体をジリジリ退かせながら薄目を開けてみる。

「これで、書き上がりだ」僕の真横に降り立ったものは、白い鳥ではなく、今宵の名が刻まれた長くて厚い原稿だった。「誕生日だぞ、重陽」ああ、なんって誕生日なんだか。チロリと後ろを見上げると、彼の顔には面白さが半分浮び上っている。「初のプレゼントだ」

### 編集後記

今日号とんからりんを作成中

ライターが壊れた。友人に相談、保存データに取出しPCを7から8にアップデート型代えた。80才で7ヶ月前、自動車免許更新。新 目は検査15、認知症テストも楽々。今更を通り一種を呉れたそれで自毛も自信があった。長年付き合ひの友人は、アソクは性格はイラチでキツと遅いとキボドを叩きすぎるので、速度の早PCに変更を進めたと言つて、ギョウんだ。性格が悪いのだ。

早足、早読、食事を早食いで反論は出来ず、仰せに従つた。だが使い勝手が悪い。8は良いが手の癖は治らない。80才で80才の手習いと覚悟を決めて作成している。何とか9月1日と思つているが、遅れるかも、お許しを頂きたい。

「ソノタとの出会いは、シャープM80R、ベッツィン時代から。只、理数系人間でなく、早い変化には着いていけない。今だそんな私にとんからりんは何時まで続けるかと聞かれる。それ20号までお許しを願います。お付き合いを願います。

新聞風の形のお届けは、毎年3月に年會費をいただいた。サカタの友の会。会費は、各員様は他のサイ、でも、だが中々増えない。出来まじら、お知り合ひの方々に、誘いと勝手なお願いが、とんからりん、投稿や、意見を頂戴したい。最近では連載の協力者が増え、紙面が向上したと思つて。千年も万年も言いたいことだが、金色夜叉、でも、私はずも言えない。せの、自まつてお願ひ。